

日韓印刷文化シンポジウム開催報告

国際印刷大学校 木下堯博*

2011年9月17日(土)東京ビッグサイト TFTビル9階910研修室にてIGAS2011記念、日韓印刷文化シンポジウム(日韓文化交流基金支援)(1)が開催された。

昨年の英国バーミンガムでのIPEX2010(2010年5月)から準備を開始し、ソウル、東京、福岡など各地で、資料収集、調査などの他、関連論文集編集・刊行(日韓印刷文化資料集)(2)を行ってきた。

講師として韓国側は斗山東亜(株)李在錫常務と予定していたが、2011年9月15日の韓国の印刷文化の日(3)に印刷文化賞を受賞され、多忙のため、代理として同社鄭国海営業本部長がSpeakerを努めた。同社は本館1階に印刷文化資料館(180坪)を有し、それらを中心として、韓国印刷文化史を発表した。当日の発表のため同館の韓国語パンフレットを日本語(4)に翻訳し(写真1)、参加者に発表要旨(PPT)とともに配布した。

日本側は全日本印刷工業組合連合会水上光啓会長が印刷の感性価値創造と文化について講演を予定し、パリやニューヨークでの発表内容をまとめ、日・韓両語の解説を加えて発表準備をしていたが、IGAS会期中(9月16日～9月22日)に全印工連フォーラムなど行事が目白押しであり、本シンポジウムと時間的に重複したため、国際印刷大学校学長木下堯博が資料集(2)を中心として日韓印刷文化史(5)について発表した。

当日の参加者は韓国側参加者を含め、約35名程度となり、熱心な討論が行われた。印刷文化史として最大の研究課題は韓国・中国の印刷技術が西進し、グーテンベルグの印刷技術の発明に関与したかどうかである。これは1997年のソウルでのユネスコの印刷史国際会議でも議論され、現在に至っている。(6)

次に、日本の百万塔陀羅尼経(770年)よりも古く、世界最古の現存する印刷物「無垢浄光大陀羅尼経」は仏国寺の石塔を改修する時に発見され、時代推定として、751年とされていたが、近年解読が進み、正確な時代の確定が進展すると思われる。

韓国の印刷文化の日と日本の印刷月間とは同じく9月である。デジタルが進展し、古い印刷様式が無くなっても、印刷文化の理念「印刷あり、文化あり」は不変である。

本木昌造は日本の印刷産業発展の基礎を築き、日本各地に印刷所が設立され、印刷文化発展に貢献したことで、高校用日本史の教科書には必ず記述されている。これらは教育系大学での調査結果として、当日発表した。

1995年9月2日の本木昌造120回忌に長崎市東亜閣で記念座談会があり、本木昌造を中心とした印刷博物館設立に関し提案(7)してきた。更に、著者は長崎新聞(8)などに博物館の必要性を市民にアピールしてきた。

それから16年間が経過し、本年9月2日の136回忌で、長崎県印刷会館(出島)の3階に森沢会長らの協力を受け、博物館(資料館)が完成した。森沢会長には多大の支援を頂いているのでIGAS2011の会期中の9月19日にお会いし、謝辞を述べた。

金属活字の現存する印刷物として、韓国は直指心体要節(1377年)、ドイツはグーテン

ベルグ42行聖書（1445年）で、ユネスコの記録遺産（Memory of The World）の認証を2001年に受けている。日本には木版か金属版か確定していないが、百万塔陀羅尼經（770年）が法隆寺を中心として、現存している。当日のシンポジウムでは、それを保有・管理している八方先生からお話を頂いた。著者も **Early Printing History in Japan** と題し、**Gutenberg JahrBuch**（1998）に百万塔陀羅尼經をまとめている。

世界的にはアジアを中心として、印刷出荷額は増大傾向にあり、新しい知識社会における文化の多様性から電子書籍の拡大などでスマートフォンのメディア文化が生まれる可能性もあろう。日韓文化は衣食住に関する生活文化と漫画・アニメなどの商品文化があり、「韓流」により、日本文化に大きな影響を与え、印刷分野にも波及効果を及ぼしている。2011年9月19日東京・新大久保に別件で出かけたが、駅から歩道まで若者が鈴なりの状況で活気を呈していた。日本・韓国でのコンテンツの価値創造が潜在性を引き出し、経済成長の原動力となり、印刷もそれに伴い発展し、更に、各国とも従来まで内需中心であった印刷産業が、積極的に外需も受注可能なビジネスモデルが必要となる。当日もスマートフォンと印刷物との情報コミュニケーションの相違に関する議論も展開された。

印刷文化の発展が印刷産業の進展を計るキーポイントになることをまとめ、日韓印刷文化の拠点構想をアピールし、若者のための日韓グローバル人材の育成など、このシンポジウムでまとめた。第2回は韓日印刷文化シンポジウム開催を2012年に韓国で開催することを、皆様に約束した。ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

最後になりましたが、本シンポジウム開催にあたり、日韓文化交流基金からの支援がありました。ここに謝意を表します。なお、2011年9月29日～10月2日、今回のシンポジウムのお礼と報告のため渡韓を予定している。 **（2011年9月20日記）**

参考文献及び資料

- (1) 国際印刷大学校事務局；印刷情報2011年9月号83頁
- (2) 木下堯博；日韓印刷文化資料集（全207頁）2011年6月30日
「東京、印刷図書館に寄贈」
- (3) 韓国で毎年、9月14日、印刷文化の日として、印刷文化に貢献した企業及び個人を対象として、政府が表彰している。本年は9月15日に行われた。
- (4) 斗山東亜古印刷資料（Doosan Dong-A Printing Culture Museum）B4・Size 3折、6ページ構成（2011年9月17日）
- (5) 木下堯博；日韓印刷文化史、PPT50枚、国際印刷大学校のHPを参照
- (6) 木下堯博、石川恵一；印刷情報、1998年1、2月号
- (7) 長崎印刷組合史；本木昌造120回忌記念座談会（1998年8月）
- (8) 木下堯博；長崎新聞（1995年8月26日号）

写真1；斗山東亜古印刷資料展示館パンフレット（日本語版）会場で当日配布、

写真2；前日の打ち合わせ、写真3；会場風景

[*kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp](mailto:kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp)



写真2 シンポ前日の打合わせ、銀座ライオンにて
(左から鄭国海講師、木下堯博講師、
会場設営プロジェクター管理担当の木下雅博氏、通訳の塩沢円実さん)



写真3 会場での質疑応答で韓国ジョングワニョン氏の答弁、
手前；講師の鄭国海氏、その並び日伸ライトカラーの福田光明会長
その隣は奥様。